

17/18
西芳雄

町の危険増大 廃案に

戦争法案

沖繩 嘉手納町議会が意見書

米空軍嘉手納基地を抱える沖繩県嘉手納町議会は16日、臨時議会を開き、「安全保障関連法案に反対し、速やかな廃案を求める意見書」案を審議しました。8議員が賛成・反対に分かれて激論を展開。採決の結果、賛成7人、反対7人の可否

同数となり、日本共産党の田仲康栄議長代理による裁決で可決されました。

賛成討論では、「町域の82%を占める嘉手納基地に苦しむ町民にとって法案は魔物だ」（田崎博美議員）、「米国の侵略戦争に加担するもので、真っ先に攻

撃されるのは嘉手納基地を抱える町民だ」（福地勉議員）、「今なお激しい基地被害の続く嘉手納で新たな危険が増大する」（金城利幸議員）、「広大な基地を抱える町民のリスクについて議論されていない」（當山均議員）と、それぞれ述べまし

た。反対討論した4議員は「法案は有事への抑止力強化につながるもの」と述べました。同議会は田仲議員を除き、保守系無所属の議員で占めています。意見書は、「常時軍事訓練が優先に行われ、町民無視の米軍嘉手納基地を抱えるわが町では、戦争や軍事行動へ自衛隊が参加していくことでテロの攻撃対象にされ、基地の危険性がさらに増すことは避けられない」と強い危惧を表しています。